

産学連携による 生活を豊かにする新商品の開発

消費者の生活の質の向上を図るため、学生が新製品のアイデアを提案し、企業が商品化および販売を行っています。



8月に実施された成果発表会の様子

活動の概要

目的	生活文化の創造を目指す企業と共に毎日をもっと便利に楽しくなる製品を開発すること
連携メンバーおよび役割	トップ産業株式会社…提案されたアイデアの商品化及び販売 株式会社トッラボ…提案されたアイデアの商品化 関西大学社会学部 池内裕美ゼミ…新商品のアイデアの提案
活動地域	大阪府吹田市
活動期間	2015年～(継続中)
費用	株式会社トップ産業からの寄付金

連携の経緯

生活協同組合を通じて生活雑貨を販売しているトップ産業株式会社は、かねてから近隣に在住する30～50代の主婦から新商品のアイデアを募り、商品開発を行っていた。2014年には3Dプリンターを導入し、自社でも試作品を製作できる環境を整えている。今回、同社の地元である吹田市の地域振興の観点から、商品開発のアイデアを市内の大学生から募ることとなり、消費者心理を専攻する池内ゼミに協力を依頼するに至った。

解決すべき課題

- (1) 毎日をもっと便利に楽しくする商品づくり
- (2) 若い学生が発想した新商品のアイデア
- (3) 大学との連携による地域社会への貢献
- (4) 外部経営資源との交流による人材開発



トップ産業（株）の開発担当者を交えての会議の様子

ゼミ内での会議の様子

大学の役割

下記のスケジュールにてゼミ活動の一環として、商品開発に取り組んだ。開発過程では、適時、トップ産業（株）及び（株）トッラボの開発担当者が参加し、アドバイスをを行った。

- 4月1週目 ゼミ合宿での課題発表（トップ産業（株）・松岡康博社長から学生に課題を発表いただき、ゼミ生を4グループに編成し取り組みをスタートさせる）
- 4月2週目 ゼミ生全員でトップ産業（株）を訪問（ショールームにて、取り扱い製品及び試作品製作用の3Dプリンターを見学。また、主婦の開発会議に参加する）
- 4月3週目 ゼミ内で知的財産関連の勉強会を開催（商品開発にあたり知的財産の取り扱い、秘密保持の重要性、先行調査の方法などの勉強を行う）
- 4月4週目 商品コンセプトの立案（グループ内で検討したコンセプトをトップ産業（株）の開発担当者と討議し大筋の方向性を固める）
- 5月～6月 商品コンセプトの具現化（他社製品との比較・差別化、使いやすさ、コスト等を検討）
- 7月 試作品製作（3Dプリンターによる試作品製作、販促用の広告の原案作成等）
- 8月1週目 成果発表会（トップ産業（株）、（株）トッラボの関係者に向けて、グループ毎に新商品のアイデアを発表する）
- 8月以降 商品化（トップ産業（株）にて商品化に取り組む）

現場の声



・松岡康博氏
（トップ産業株式会社
代表取締役社長）

生活雑貨の卸売業である弊社にとって、更なる発展のためにメーカーとしての「ものづくり」の機能を持つことが経営課題でした。そこで斬新な商品のアイデアを求めて大学との連携を始めたところ、消費者心理を学ぶ学生ならではの消費者目線での提案を頂くことができました。また、学生と関わることで弊社の開発部員が自らの業務の意義と使命感を再確認できたこと、地域貢献に取り組む企業の一員としての誇りを持つことができたことも大きな成果です。

成果

- (1) 2015年の5アイデアのうち2件が商品化される
- (2) 2016年の4アイデアを商品化に向けて開発中
- (3) トップ産業（株）の開発担当者のモチベーション向上
- (4) 社会人と一緒に商品開発に取り組むことによる学生の社会経験
- (5) 吹田市役所、吹田商工会議所からの地域貢献に対する評価

今後の展望

- (1) 2017年も引き続き共同での商品開発に取り組む予定
- (2) 人文系のみならず理系の英知をも取り入れた商品開発

研究者の紹介



社会学部 教授
池内 裕美
(いけうち ひろみ)

兵庫県神戸市生まれ。大学院修了後、広告デザイン会社で市場調査や商品企画等の実務経験を経て現職。専門分野は、社会心理学・産業心理学（特に消費心理の領域）。現在の主な研究テーマは、買い物依存やモノの溜め込み、さらには苦情行動といった「逸脱的消費者行動に関する心理的メカニズムの解明」。特に苦情研究は社会的注目度も高く、メディアからコメントを求められることも多い。